

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2009年11月中旬から12月下旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊は少なく、終漁。

(2) 漁場: 漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量はゆるやかに減少し、11月中旬には中位水準、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。12月中旬は、終漁となる。

(2) 漁場: 11月中旬～11月下旬は、釜石～金華山沖にかけて漁場が形成される。12月上旬は金華山沖に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 来遊量は増加し、11月中旬には高位水準となる。11月下旬以降は減少し、11月下旬～12月上旬は中位水準、12月中旬～下旬は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月中旬～12月上旬は、金華山～犬吠埼の広範囲に漁場が形成される。12月中旬には、常磐北部の漁場が消滅し、12月中旬～下旬は小名浜～犬吠埼沖に漁場が残る。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向					
	漁場					
三陸海域	来遊量	→	→	→		
	動向	中位減少	低位減少	低位減少		
	漁場	釜石～ 金華山沖	釜石～ 金華山沖	金華山沖		
常磐海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	高位増加	中位減少	中位減少	低位減少	低位水準
	漁場	金華山～ 犬吠埼沖	金華山～ 犬吠埼沖	金華山～ 犬吠埼沖	小名浜～ 犬吠埼沖	小名浜～ 犬吠埼沖

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

1) 道東海域

漁場は形成されなかった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を上回り、前年並みの高位水準となった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量) から判断すると、期半ばにかけて徐々に来遊量が多くなり、期後半にはやや減少した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～金華山沖であった。

宮古東～金華山東沖の10～80海里付近(表面水温13～17)。連日大型船と小型船が多数操業。船間差はやや大きく、大型船で10～125トン程度、小型船で数トン～25トン程度漁獲。

(3) 魚体

27～29cmモードの中型魚と31～32cmモードの大型魚主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を上回ったが、前年を下回り、中位水準であった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量) から判断すると、期後半に来遊量が増加した。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、金華山～小名浜沖であった。

金華山東南東～小名浜東沖の40～70海里付近(表面水温14～18)。21～22日夜と28日夜以降、大型船が数隻～30隻程度操業。28日夜以降は、小型船が数隻～20隻程度操業。大型船で80～100トン程度漁獲した船もあるが、数トン～50トン程度の船も多かった。小型船は15～25トン程度漁獲。

(3) 魚体

27～29cmモードの中型魚と31～32cmモードの大型魚主体。